

(様式2)

平成 21 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1571700465		
法人名	特定非営利活動法人 心つくし会		
事業所名	グループホーム ありがとうの家		
所在地	新潟県五泉市村松甲5604番地1		
自己評価作成日	平成22年5月6日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do">http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成22年6月21日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地は緑豊かで四季折々の自然に触れることができる。  
同一敷地内にはこども園と学童保育ルームがあり、子供たちの元気な声が聞こえ、元気な姿が見える。  
時折り園児が訪れ触れ合いを楽しんでいる。  
又、デイサービスセンター、有料老人ホームも同一敷地内にあり、高齢者3施設とこども園合同行事の開催で地域交流を行っている。  
地域に残っている生活文化を伝承し、四季の生活行事に取り入れている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、五泉市村松の中心部にほど近く、昔からの集落の中にある。近隣には商店街があり生活の利便性が良い一方、裏手には里山が広がり、自然豊かな環境でもある。母体法人は、有料老人ホームやデイサービスセンター、保育所、こども園等を同じ敷地内で運営しており、看護師による健康面でのサポートや園児との交流行事など、事業所間で様々な連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。納涼祭や芋煮会、地域の伝承行事にちなんだ料理を振舞う食事会など地域交流行事にも力を入れており、多くの住民から参加を得ている。

法人理事長は日常的に事業所を訪れて利用者と交流を持って関係づくりを行うとともに、サービスの現状を確認し、現場職員の声を聞くように努めている。今回のサービス評価における自己評価も、職員全員が先ず個別に行い、それを管理者が集約する手法をとっており、職員一人ひとりが業務を振り返って見直しや再確認をするとともに、職員の気づきや意見を運営に活かす機会としている。

事業所は職員の明るい挨拶と笑顔にあふれ、利用者は、和やかに、温かい雰囲気の中で過ごしている。生活の中で大きな楽しみである食事には特に力を入れており、土地の食材や郷土の伝統料理、風習を取り入れ、利用者が楽しめる食事づくりに取り組んでいる。

今後は、地域の関係機関との連携を強化し、より地域に根ざしたサービスの提供に取り組むこととしており、地域の認知症ケア専門事業所として、地域福祉への貢献が一層期待される。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	できる限り住み慣れた地域で、利用者が安心して暮らせるよう、理念に基づいた支援を実践している。	日々のミーティングや毎月の職員会議、内部研修など、折に触れて理念を確認し、理念を指標として話し合いを行っている。また、新入職員の育成に際しては、まず理念の理解を進め、理念を共有して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	<b>事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが時々近所の方が野菜を届けてくださる。年数回の地域交流行事の開催を通じ、地域との関わりを大切にしている。	毎年、納涼祭や芋煮会、地域伝統行事にちなんだ食事会などの地域交流行事を行い、事業所も地域の一員として多くの住民と交流を深めている。また、年4回広報紙を地域に回覧し、事業所の活動や取り組みなどの情報発信に努めている。	
3		<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な取り組みは行っていないが、市内中学校の「職場調べ学習」で講話依頼があり、「介護福祉士の仕事」の中で認知症についても触れ理解を求める機会があった。	/	/
4	(3)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状や取り組みについて報告して意見交換を行い、サービス向上に努めている。年6回開催の内2回は行事参加形式で開催し、より理解を深めてもらっている。	会議では運営やサービスの取り組みについて報告し、意見交換を行ったり、情報提供や助言を受けている。昼食後の利用者との関わり方や防災面での地域協力等について問題提起も行われ、サービス向上に活かしている。平成22年度からは地域包括支援センター職員が新たにメンバーに加わった。	地域福祉のニーズに応じていくためにも、地域包括支援センターと連携し、一層の会議の活性化を図り、サービスの向上に取り組んでほしい。
5	(4)	<b>市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回市担当者から参加してもらい、情報交換を行っている。市担当者に適宜連絡をとって相談し、協力関係を築くよう努めている。	市の担当者とは、運営推進会議での意見交換のほか、日頃から運営やサービス、手続き等について連絡や相談を行っており、協力関係を築いている。	
6	(5)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや施設内外の研修等により職員は身体拘束についてよく理解しており、日中は玄関の施錠は行わないなど身体拘束をしないケアを実践している。	向精神薬が処方されている利用者に対し、ケアの仕方を工夫して薬に頼らない支援に努めたり、外に出たい利用者には付き添って散歩に出かけたりと、施錠も含めて身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外研修等により職員は虐待防止についてよく理解しており、常に話し合い細心の注意を払い防止に努めている。	マニュアルや研修等での周知のほか、日々のミーティングや職員会議等で話し合いを行い、虐待の防止に努めている。言葉による心理的な虐待にも注意を払い、常に意識して虐待のないケアに取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について職員は概ね理解しているが、制度を必要とする利用者はいないので知識はあまりない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分に説明を行い、理解、納得を得られている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が相談や意見を言いやすい関係作りに努め、得られた意見は全員で共有し運営に反映させている。 玄関に苦情、相談箱を設置し外部者へ表せる機会を設けてある。	家族等の訪問時に積極的にコミュニケーションを図り、意見や要望等を汲み取るよう努めている。得られた意見等は、日々のミーティングや連絡ノートで周知・共有し、サービスに反映させている。玄関には苦情・相談箱を設置しているが、現状としてあまり活用されていない。	利用者家族などから相談箱が有効に活用されるよう、設置場所や周知方法等の検討が望まれる。併せて、より意見を把握するためにアンケートや面談の機会を利用するなど、多様な方法で取り組むことを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や各委員会会議などで意見や提案を聞く機会を設けてあり、会議に参加しやすいよう勤務体制も配慮している。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を汲み取りサービスに反映させるよう努めている。また、人事考課に伴う個人面接を定期的に行っており、職員の意見等を聞く機会として活用している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はその時々就業規則を見直し改定を行っている。 職員個々と面接を行い、各自が向上心をもって働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り施設内外の研修に参加できる機会を設けているが、参加できる人員は限られてしまう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者と綿密な交流はないが、他施設研修の相互受け入れや、他施設見学など交流に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の段階から本人や家族から生活歴や経験、不安なこと、要望などよく聞き、日々の安定が図れるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や面会時、家族が不安や要望を言いやすい雰囲気と、信頼関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成担当者が本人、家族と面談し、必要としている支援の見極めに努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	受容・尊敬・共生の運営理念の基、共に感じ、共に受けとめ支え合う「家族」という関係を築いている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら、日々の様子を電話連絡や近況報告で知ってもらい、一緒に支える関係を築いている。	面会時や電話等で家族とコミュニケーションを図り、情報を共有することを大切にしている。また、3ヶ月に1度、本人の生活の様子を書いた手紙を家族に送ったり、広報紙で活動をお知らせして、本人を身近に感じてもらえるよう努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問時には快く過ごしてもらえるよう配慮している 馴染みの場所へのドライブなどの支援を行っている。	同法人が運営する有料老人ホームで暮らしていた利用者もあり、昔の友達が訪ねて来たり、合同行事を通して交流を重ねている。また、昔住んでいた土地に出掛けたり、墓参りに行くなど、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士トラブルになる時もあるが、職員 が間に入りその時々での最善の対応に努め、 仲良く支えあう生活ができるよう支援してい る。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了で関係の途切れる方が多く、継続 的な関わりを必要とする利用者や家族はい ないが、退去後に訪問や経過を伝えてくる 家族には温かく接している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	思いや意向を確認できない人も多いが、家 族等から聞き取りを行うなど、できるだけ本 人の思いや意向に近づくよう努めている。	センター方式アセスメントシートを活用し、思いや 意向の把握に努めている。折に触れ本人や家族 から聞き取りを行ったり、日々の関わりの中で汲 み取るようにしている。得た情報は、カンファレンス を通じて介護計画に反映させている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	基本情報シートや聞き取りなどにより、これま での生活歴、本人にとって大切なこと、その 人らしい暮らし方、サービス利用経過等の把 握に努めている。	入居初期の本人の不安を軽減し、暮らしを円滑に 支援できるよう、入居時は、家族を中心に関係機 関等からの情報把握に努めている。入居後も、 日々の関わりの中で知り得た情報はケース記録に 記入しているが、職員間の共有や介護計画への反 映が十分ではない。	日々の関わりで得た情報の共有方法や、 介護計画に反映するための仕組みや手順 を検討し、これまでの暮らしの情報をより良 いケアへつなげるための取り組みを期待し たい。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	記録や職員間の申し送り事項、本人の言動 などから本人が一番良い方法で一日が過ご せるように現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや随時カンファレンス を行い、本人や家族の意向、職員の意見を反 映させた介護計画の作成に努めている。	本人、家族の意見や要望を確認し、担当職員と調 整後、カンファレンスで話し合っ て介護計画を作成している。一人の利用者を複数の職員で担当して いるが、全ての担当職員の意見が反映される仕組 みがあるとは言えない。また、家族へ介護計画書 を交付する際、郵送の場合も多く、内容の説明が十 分とは言えない。	担当職員の意見集約方法の検討およびそ の意見が反映される仕組や手順作りを期 待したい。また、家族に介護計画書を交付 する従来の方法の他に、カンファレンスへ の出席や個別面談など、計画の内容を直 接家族へ説明できる取り組みも検討してほ しい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌、排泄、バイタル記 録等漏れのないよう記入し、情報は職員間 で共有しながら実践や介護計画の見直しに 活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス、有料老人ホーム、こども園との交流行事でのふれ合いは喜ばれている。 健康状態により入浴が困難になった時、デイサービスの特浴設備を借りたこともある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民俗学に詳しい人の協力を得て、郷土の生活、伝承文化などの話を聞く機会を設けている。 消防署の協力で、防災訓練を行い利用者の安全確保に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にしている。 協力医院があり、毎月の定期往診と急病、体調不良時は往診してもらっている。	本人、家族の希望を大切に、入居前からのかかりつけ医を継続している。加えて、かかりつけ医との連携のもと、入居時、全利用者から協力医院に受診してもらっており、夜間や緊急時等の対応に備えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内のデイサービスに常勤看護師がいるので、なにかあった時には相談している。 また緊急時には連絡が取れ、指示がうけられるようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から事業所でできることの十分な説明を行っている。 できる限りの支援を行っているが、対応困難となった場合を考えて特養への申し込みを含め、家族と話し合いを持っている。	契約時に、事業所の介護・医療の体制、対応できること・できないことを説明し、重度化や終末期の方針の共有に努めている。状況に応じて、他施設への移行を含めて家族と話し合い、必要な支援を行っている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的な訓練はなく、救急や事故発生時の対応には不安がある。	隣接する同法人のデイサービスセンターの看護師と連携し、助言や指導を受けているが、夜間や休日の支援体制が十分ではない。応急手当や初期対応の定期的な訓練は行われておらず、全ての職員が急変や事故発生時に適切な対応ができる体制にあるとは言えない。	救急救命法のほか、骨折や誤嚥、誤薬、意識低下など日常的に起こりうる急変や事故を想定して、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行ってほしい。デイサービスセンター看護師と連携を図り、必要性の高い訓練から順に実施していくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練や夜間に消防署立会いで、火災を想定した通報、避難、伝達、消火の総合訓練を実施している 地域交流行事などの際、地域住民に災害発生時の協力をお願いしている	火災や地震を想定した避難訓練は、夜間も含め、定期的実施し、実践力が身につく訓練になるよう努めている。現在、地元青年団と災害時の協力体制を検討中である。	地域の協力を得ながら実効性ある協力体制が整備されることを期待したい。また、家族の不安を軽減するためにも、災害時の対応や避難場所について家族へ周知することも検討してほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないような言葉使いと対応に努めているが、排泄時などの対応で少し配慮に欠けることもあるかもしれない。 記録類は事務所で保管し個人情報の保護に努めている。	管理者は、日頃から職員の言葉遣いや接し方に注意を払い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアに取り組んでいる。排泄支援時は利用者の目線でそっと声を掛けるなど、配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心して話ができるような雰囲気作りに努め、会話や関わりの中から本人の思いや希望を引き出し、少しでも自己決定できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しながら自己決定や希望はできる限り取り入れて支援しているが、難しいときもある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに無関心な人が多いが、職員と一緒に服を選んだり、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化、重度化により調理に参加できる人はほとんどいないが、できる範囲で野菜の皮むきやごますりなど行っている。 職員も同じテーブルで一緒に楽しんで食事している。	利用者の出来ることを活かし、下ごしらえや後片づけと一緒にしている。職員も一緒に食事を摂り、楽しんでいる。また、土地の食材や郷土の伝統料理、風習等を取り入れながら、利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量チェックと、毎月体重測定を行っている。水分補給には常に留意し水分補給を促している。 キザミ食やお粥などその人の体調に合わせた食事を用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし口腔ケアを行っている。 義歯洗浄や磨き残しがないかチェックし、清潔保持に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンにあわせた、オムツに頼らないトイレでの排泄支援に努めている。	紙パンツや尿取りパット等に頼りすぎず、トイレで排泄できるよう支援することを基本としている。個々の排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導方法を工夫して気持ち良く排泄できるよう取り組んでおり、失敗が減った利用者も多い。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分補給を促したり、身体を動かす働きかけを行っている。排便記録表により個々の排便状況を確認している。 場合により医師の処方の下剤の服用もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全を第一に支援している。 ゆっくり入浴が楽しめるよう、湯の温度は一人ひとりの好みに合わせるなどしている。 時間帯は個々の希望どうりにはならないが、順番は不公平にならないように配慮している。	2ユニットで交互に曜日を設定し、週3回の入浴を基本としているが、希望があればいつでも入浴できる。入浴を好まない方には声かけやタイミングを工夫し、気持ちよく入浴できるよう支援している。また、利用者の心情や誇りにも配慮して入浴支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明に配慮し、日中は居室や居間で自由に休息してもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法、用量については処方箋で確認し理解している。 薬は職員が管理し、服薬支援と状態の変化の確認も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割意識を持って自発的にモップかけや洗濯物たたみなど行っている人もいる。 一人ひとりの楽しみごとを理解し、声かけを行うなど支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなどの行事計画を立てたり、体調、天候を見ながら散歩など戸外に出かけられるよう支援している。 一部の家族も戸外に一緒に出かけるなど、協力を得られている。	天気の良い日には、事業所の畑を見に行ったり、広い敷地内を散歩している。桜や牡丹、バラなど季節ごとの花見や地域の伝統行事への参加、買い物など、ドライブや外出も積極的に支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物忘れや紛失などの問題があり、自身で金銭管理できる利用者はいない。 必要に応じ、また本人の希望に応じ預かり金の中から職員が同行し買物ができる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは自由に行えるが、電話を希望する人はいない。 手紙を書ける人はほとんどいないが、本人が望めば職員が代筆している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気、採光などに気を配り、壁面飾りや季節の花を絶やさないようにしたり、冬は居間にこたつを置いて季節感を取り入れている。 ホールからトイレがあまりにも近いこと、プライバシーが保てないことが問題点としてあげられる。	随所に季節の花を生けたり、壁飾りや利用者の作品を飾り、居心地良く過ごせる空間づくりに勤めている。小上がりの畳スペースもあり、神棚がまつられ落ち着いた過ごせる雰囲気である。ホールの間近にあるトイレには衝立や暖簾を用いて、プライバシーに配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつで気の合った利用者同士で過ごされたり、居間の一角で将棋をされたり、居間、ホール、居室と思い思いに過ごしてもらっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの装飾品など配置し、居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	居室には、テレビや家具、ベッドや布団など、好きな物が持ち込まれている。家族の写真や小物、事業所で作った作品なども飾り、その人らしい居室づくりをしている。全ての居室の入り口には全て暖簾を掛け、プライバシーにも配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札や、トイレなどはひと目で分かるように字や絵で表示している。 手すりや介助バーの設置など安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		